

いのち  
生命を生みだす母親は 生命を育て 生命を守ることをのぞみます

2012年  
第58回

# 日本母親大会

in

新潟

草の根の母親・女性の願いや要求を語り、あゆみつづけて58年  
今年の夏、日本母親大会が新潟県新潟市でひらかれます  
みんなでさそいあってあつまりましょう

第1日目

分科会

8月25日 土

12時30分～17時

●新潟・朱鷺メッセ全館、新潟市民プラザ、佐渡汽船会議室他

第2日目

全体会

8月26日 日

10時～15時

●新潟・朱鷺メッセ (ウェーブマーケット)

子どもと教育、くらし・権利・労働、平和  
と民主主義、女性の地位向上など、さま  
ざまな問題をテーマ別に話し合います。

▶両日も大物産展・書籍バザールがあります

記念講演

斎藤貴男さん (ジャーナリスト)

「格差と貧困のない社会を  
—3.11以後…私たちはどう生きるのか」



主催●第58回日本母親大会実行委員会 東京都千代田区二番町12-1 全国教育文化会館内 TEL 03-3230-1836 FAX 03-3230-1837

開催●新潟母親大会実行委員会 新潟県新潟市中央区寄居町332-67 TEL 025-222-3367 FAX 025-223-5221

協力●北信越ブロック各県母親大会実行委員会 (長野・富山・石川・福井)

# 母親が変われば社会が変わる!

## 母親運動のあゆみは日本の女性運動のあゆみです

### 母親大会の はじまり

#### ー「日本婦人の訴え」から世界母親大会開催へ

1954年、アメリカの水爆実験によってマグロ漁船員の久保山愛吉さんが亡くなりました。広島、長崎につぐ三度目の被爆に母親たちは怒り、平塚らいてうら5人は全世界にむけ「水爆禁止のための訴え」を送り、1955年スイスのローザンヌで世界母親大会の開催が決まりました。それに先立ち

6月、第1回日本母親大会が東京でひらかれ、日本各地の炭鉱や農村からも、1円募金などで送り出された2000人の母親が集まりました。世界大会に河崎なつを団長にあらゆる分野から代表を選び、14人が参加しました。はばひろい母親運動の出発点です。

### 母親大会の あゆみ

#### ーくらし・平和を守ってたくさんの母親・女性たちが行動

帰国後の報告会は、全国各地で数千回ひらかれ、各地に母親運動が広がりました。そして母親・女性たちの願いをかかげ、子どもたちを小児マヒから守るための生ワクチンの緊急輸入、学校給食の脱脂粉乳を生乳に、ポストの数ほど保育所を、高校全入や私学助成など教育問題、物価値上げ反対、地球環境・公害問題など母と子を取りまくさまざまな問題

にとりくみ、貴重な成果をあげながら、58年余をあゆみつけてきました。

世界母親大会によせられたギリシャの詩人ペリディス夫人の詩の一節「生命(いのち)を生みだす母親は 生命を育て 生命を守ることをのぞみます」は、今日まですべての母親・女性の心をとらえ、連帯のスローガンになっています。

### 新潟に あつまり ましょう

今年の開催地新潟県では、北信越ブロック(富山・石川・福井・長野)の各県と一緒に全国のみなさんを迎えようと、全力で準備をすすめています。

1日目は30余のテーマに分かれて分科会、2日目は47都道府県からの参加者が一堂に集まる全体会で、記念講演はジャーナリストの斎藤貴男さんです。

母親大会はだれでも参加できる大会です。厳しい情勢の

ときだからこそ、「集まれば元気、話し合えば勇気」を合言葉に母親大会に集い、連帯をつよめ明るい未来をきりひらく力にしていきましょう。

8月、幾多の洪水をのりこえて、先人たちがつくりあげた広大な穀倉地帯が広がる新潟で開催される第58回日本母親大会に、北から南から、都市から農村から、世代をこえてきそいあい、よびかけあつてあつまりましょう。